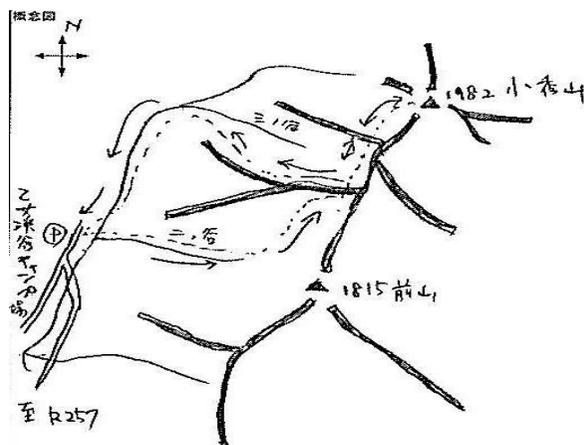


小秀山

暑いけれど登る

2018年7月25日

L: 齋藤



アクセス

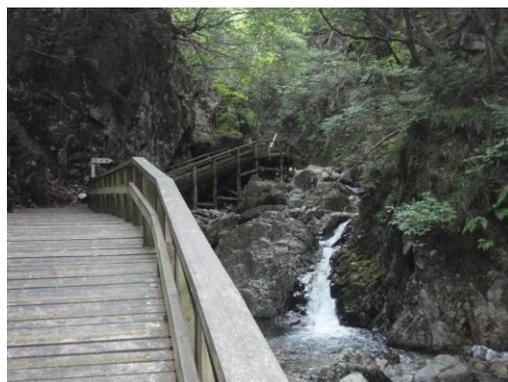
中津川市街より R257 を約 30km 北上。道路沿いに乙女溪谷キャンプ場の看板あり。駐車数十台可(有料 500 円)。キャンプ場のトイレ使用可。

7月25日(水)晴れ

残留当番中、この山を登っていた石津さんより下山連絡を受け、「沢沿いで気持ちよく、なかなかいい山だったよ」とのことだったので、自分も行ってみることにした。

前日の 23 時半頃、浜松を出発。R257 沿いの道の駅で仮眠しながら、キャンプ場に 7 時頃着。多治見で全国最高気温をマークし、暑いことは当然想像できるのに、山に登るのは如何なものかと思いな

がらも登山開始。登山道は二ノ谷に沿って木道が整備され、歩きやすい。



ちょっとだけ涼しい二ノ谷沿い

しばらく歩くと夫婦滝という高さ 80m もの滝に辿り着く。しぶきが舞ってきてしばしの涼を得るが、これから山中に入るの、この涼しさとはお別れ。また、これから三ノ谷分岐までは急峻な山道と

なるはずなので、激しく気落ちする。



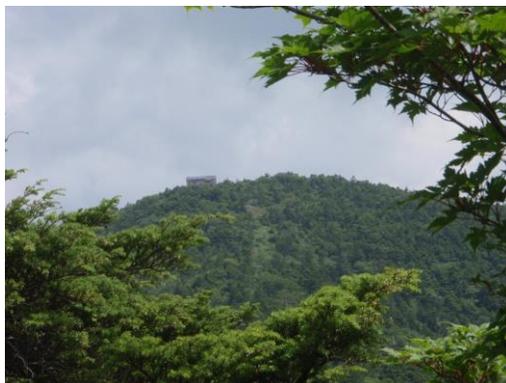
大切な水よ、しばしのさよなら

出発から約2時間後、やっと三ノ谷分岐まで辿り着いた。全身汗だくでザックも濡れていて気持ち悪い。このまま分岐から下山したくなるが、山頂まであと2.4km。往復約5km。地形図を見ると出だしの登りさえ頑張れば、あとはほとんど高低差が無い。せっかくだから登ろうかな、と足を進めた。



高低差は無いが今度は笹だらけ。

分岐から2kmほど歩いただろうか、山頂が見えた。左隣に大きな避難小屋が見える。



避難小屋、でかつ

目的地が見えると、頑張ろうと思えてくる。相変わらず笹だらけだけど、誰かがある程度笹を刈ってくれているみたいだからホント助かる。

この地点より約500mを20分で歩いて山頂に到着。



御嶽山は雲で見えず。

途中で見えた避難小屋に立ち寄ってみた。秀峰舎と言うらしい。建物は新しく、バイオトイレ付き。バイオトイレね、仕事柄、こういったものはついつい見入ってしまう。



男子・女子トイレと分かれている



使用后、長さ 30cm ほどのハンドルをぐるぐる回す。



バイオ(おがくずとか?)で処理された物のうち、液体物は VU50 で建物外部へ排出するらしい



タンク内に活性炭が敷き詰められていた。

この槽で吸着後、土壌浸透？

小屋も見たし、山頂も暑くて体力を奪われるので下山を開始する。約 1 時間で分岐まで戻り、そこからは延々とつづら折りの山道を下る。これがまた長くて苦行の域。



一気に下りたい所だが「ショートカット禁止」の札があちこちに掲げてある

キャンプ場に戻ったのは 14 時頃。今回の登山は終始汗だく。飲んだ飲料は 1.5L。さらに、沢の水をがぶ飲みしているので合計 2L 以上は確実に摂取している。それでも、発汗量から考慮すると、身体の維持には 2L では全く足りていない。では、今後はどう活かすのか。最初から水を多

く積んで登る(今回はこれ)。道中で水が確保できる山を選ぶ。夏の低山は登らない。様々な選択肢はあるだろうが、その時の自分の体調と相談をし、これからも山に登っていきたいと思う。

話は変わるが、登山中にガラス瓶の破片を見つけた。最初は通り過ぎたが、湖西連峰のごみは拾うのに、他の山のごみを拾わない理由はないだろうと引き返し、持ち帰ることにした。結局、下山までにビニールごみ、薬のごみ、ストックのキャップ×2、靴のソール等を回収した。

薬のごみは新キャベ2だった。胃腸の調子が悪いのに登っていたのかな～、頑張るなあ。靴のソール、剥がれても気づかず下りたの？まじか？放置しただろ、ホントは。ストックのキャップは、2個とも三ノ谷の長い下山路で見つけた。疲れ果て、ストックを多用しすぎて木の根に引っ掛けたか？などと想像をしてしまった。

残された物からその人を想像することもなんだか楽しかったので(独りで暇だからか？或いは暑くて自身が壊れかけていたか？)、今後も続けていこうかなあと思う。



さすがにソールは気づくでしょうに

<タイム>

乙女溪谷キャンプ P(7:15)-分岐(9:40)-小秀山 1982(10:55)-分岐(12:05)-乙女溪谷キャンプ P(14:05)

(齋藤 記)